

第3節 常盤構内(山口大学工学部構内遺跡)の調査

1. ライフライン再生(給排水設備)工事に伴う立会調査

調査地区 常盤構内

調査面積 約90m²

調査期間 令和4年9月15日、11月30日、12月2日、12月5～6日

調査担当 田畑直彦

調査結果

常盤構内でライフライン再生(給排水設備)工事に伴い、構内北部の埋蔵文化財包蔵地の一部とその隣接箇所掘削工事が計画された。このため、令和3年度第4回埋蔵文化財資料館専門委員会(令和4年3月28日(月))の審議を経て立会調査を行った。

A地点では現地地表下124cmまで掘削を行ったが、すべて造成土の範囲内であった。B地点では現地地表下約46cmで地山の黄橙色(7.5YR8/8)シルト、約69～89cmで明緑灰色(10GY7/1)を主体とする岩盤および岩盤風化土を検出した。C地点では現地地表下約170cmまで掘削を行ったが、すべて造成土の範囲内であった。

以上から、調査区内は身体障害者用スロープ取設に伴う立会調査区等と同様に、削平されていることが確認できた。

【註】

- 1) 河村吉行(1987)「工学部身体障害者用スロープ取設に伴う立会調査」山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報VI』, 山口

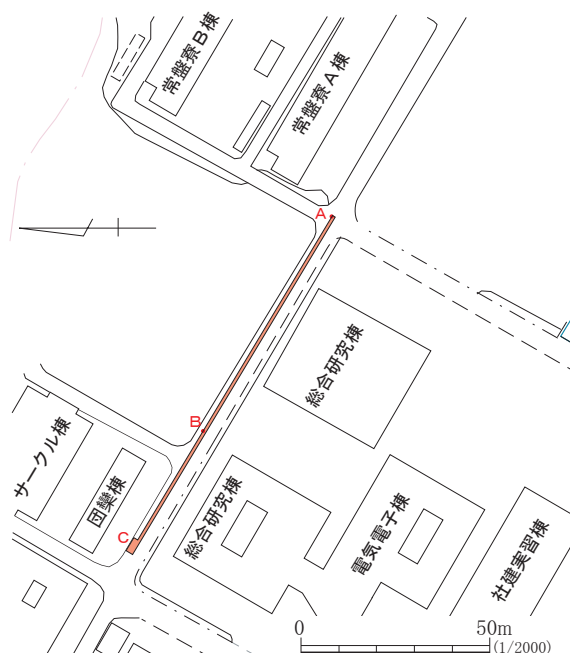


図 24 調査区位置図



写真 78 B地点周辺 (西から)



写真 79 B地点土層断面 (南西から)